



土食って虫食って口渋い



国保連合会囑託 東田 文男

ツバメが、今年もやって来ました。私が住む近くの商店街の軒先は、ツバメのマイホームとなっています。えさを求め仕事にでかける姿や夫婦？で巣作りに励むところを見かけると、「頑張れよ」と、つい励ましたくなります。

ところがツバメの姿が年々少なくなっています。山科川や宇治川に近いわが商店街でも、空き家の巣が目立っています。

えさとなる昆虫は、農薬の影響で少なくなり、一方、軒のない家が増えました。ツバメは泥と枯れ草を材料に、唾液をまぜて巣作りするとか。ところが、その巣がよく落下するというのです。化学肥料の影響で、泥に粘りけがなくなり、もろくなったためだと聞いたことがあります。

人の多い所にツバメは巣を作ります。ヒナを守るため、人間を「用心棒」に仕立てているわけですが、人が出したゴミの増加とともに天敵のカラスが増えてしまいました。



自宅近所のツバメの巣

ツバメの減少原因としてクローズアップされてきたのが「人による巣の撤去」です。昔から農作物の害虫などを捕食するため、ツバメは幸運を運ぶ縁起のいい鳥として親しまれてきました。ところが、巣から落ちるふんを嫌がる傾向が強まり、ネット上では「ツバメ撃退法」といった内容が多くみうけられます。

人とツバメの共存が難しくなってきたのでしょうか。

さらに懸念されるのが、福島第１原発事故による放射性物質がツバメに与える影響です。チェルノブイリ原発事故ではツバメの喉の一部が白くなったり、尾羽の異常が報告されており、日本野鳥の会では情報を集めています。

地球温暖化の影響なのでしょうか。ここ数年の猛暑で、巣立ち前のヒナが暑さに耐えられず巣から落下するといったケースも指摘されています。

「土食って虫食って口渋い（つちくってむしくってくちしぶい）」。これを早口で言うとツバメのさえずりになるといいます。

近い将来、このさえずりも聞けなくなるかもしれません。